

「生涯活躍のまち」令和5年度第2回意見交換会



テーマ	『健康』、『活躍・しごと』分野における デジタル技術の活用
日時	令和5年 12月18日 (月) 15:00~17:00 Zoom会議



意見交換会の内容

主催：内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局
事業委託事務局：PwCコンサルティング合同会社

概要

デジタル技術を活用した「生涯活躍のまち」に係る知見・ノウハウの共有のため、
岡山県 奈義町 及び **京都府 久御山町** から取組について発表
及び「生涯活躍のまち」に関心がある参加者との**意見交換を実施**。

意見交換会には、**25名・20団体**の地方公共団体にご参加いただきました！

※うち「今後、取組を推進したいと考えている/取り組みを検討中」12団体

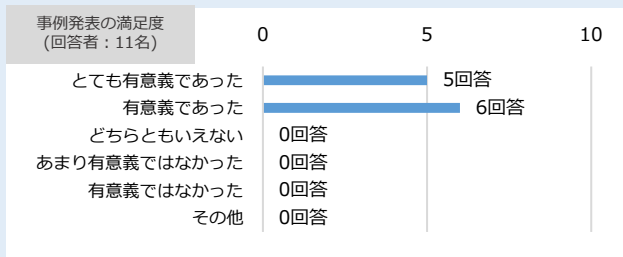
「事例発表」の参加者の声



両自治体の熱量を直に感じることができ、本町においても、
その想いを踏襲して事業展開をしたいと感じた



両事例とも検討段階から実施、その後のブラッシュアップ
まで試行錯誤して取り組まれているのがよく伝わった
同じ取組を導入することは難しそうだが、**手法等を参考に**
させていただきたい



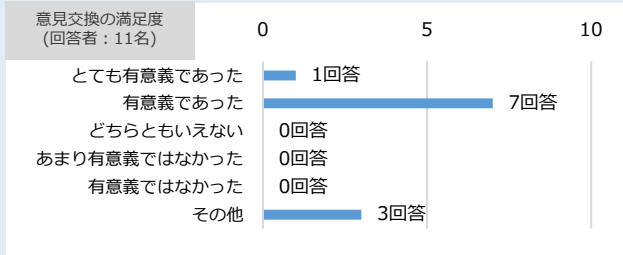
「意見交換」の参加者の声



デジタル技術を活用した「生涯活躍のまち」の取組みを推
進するにあたって、**感じている疑問点等に的確に回答いた**
だけだ



自分自身の着眼点とは異なる参加者から質問もあり、参考
になった



当日のプログラム

岡山県奈義町・京都府久御山町から事例紹介いただき、両市町との意見交換を実施

事例紹介

デジタル技術を活用した「生涯活躍のまち」の取組概要や具体化プロセス等について、苦労した点、新たな気づき、事業推進の成果等を踏まえ事例紹介



岡山県 奈義町
オンライン × ワークシェアリング

しごとコンビニ事業におけるオンラインの活用



京都府 久御山町
健康 × ウォーキングアプリ

ウォーキングアプリを活用した歩くまち「くみやま」推進事業

意見交換

岡山県 奈義町、京都府 久御山町合同での、事前に寄せられた質問への回答や、事例紹介への質問等を含めた、自由な意見交換

取組の概要、意見交換会の概要について次頁以降で！



事例紹介 1

岡山県 奈義町

コンセプト

奈義町版 全世代 全員活躍のまちづくり

デジタル技術を活用した取組

しごととコンビニ事業におけるオンラインの活用



取組の全体像

しごととコンビニ事業とは、ワークシェアリングにより“ちょっと”だけ働きたい人と、“ちょっと”だけ手伝って欲しい人とをデジタルで結び、地域の課題や事業所等の困りごとを「仕事」で解決する仕組み。子育てママが、空いた時間に在宅で働けるように、在宅に適したしごと（データ入力やチラシ作成）を用意。その上で、必要に応じて、PCスキルアップ研修を実施し、まちで稼げる「テレワーク人材を育成」している。

また、高齢者のデジタルデバインド対策として、携帯3大キャリアと連携して、高齢者に1人1台スマホ所持を推進。スマホデビューした高齢者向けに、しごととコンビニのママが講師となりスマホ教室なども開催している。

事例に関するQuestion

Q

貴市は3つの地域再生推進法人を認定しているが、**地域再生推進法人を活用するメリット**をお伺いしたい。

参加団体

A

奈義町

地域再生推進法人を活用するメリットとしては、**地方創生推進交付金（現：デジタル田園都市国家構想交付金）を用いながら、事業を推進できること**だと感じている。また、**当町の地域再生推進法人は住民主体となっているため、住民主体や住民を核とした地方創生を推進できることもメリットの1つ**である。

Q

しごととコンビニ事業は自走されており、とても魅力を感じる。**事業の自走に向けて取り組むべきこと**をお伺いしたい。

参加団体

A

奈義町

行政として、大がかりな事業の支援も、小さな事業の支援も、行うことはあるが、**とにかく支援を数多く行うことが重要だと感じている**。支援する中で、上手くいく事業、上手くいかない事業が出てくるが、**当初自走が難しいと感じていた事業でも、支援してみると低コストで自走支援ができる事業も存在する**。支援の在り方も様々で、住民のやりたいことを傍で見守っているという場合もある。**行政として出来得る支援を沢山することが大切**である。

事例紹介 2

京都府 久御山町

コンセプト

夢いっぱいコンパクトタウン くみやま CCAC (Continuing Care All generations Community) 構想

デジタル技術を活用した取組

ウォーキングアプリを活用した歩くまち「くみやま」推進事業



取組の全体像

鉄道駅が立地していないことによる公共交通の課題や、一人当たりの医療費増加に加え、運動習慣を持たない住民が増加していることに対応するため、健康増進や介護予防等の取組と全世代・全員活躍のまちづくりの実現に向けた取組を一体的に実施できる事業の具現化を行った。**“歩く”をキーワードに、モバイルデバイス等を活用し、住民・企業・行政が相互交流を図れる仕組みを構築した。**

町独自のウォーキングアプリ『夢見る健康くみやまALUKO』を開発し、“歩く”ことを1つのテーマとした健康長寿のまちづくりに向け、部門横断的な取組として推進している。

事例に関するQuestion

Q

ウォーキングアプリ利用者の男女比率や年齢別の男女比率についてお伺いしたい。

参加団体

A

久御山町

男女比率に重きを置いて分析していないため、男女比率に関する正確な数値は不明であるが、3地区ある当町の地区別利用者分析の結果を踏まえると、**女性の利用者が多い印象を持っている**。また、**ウォーキングに関するシンポジウムや講習会への参加者も男性より女性が多い**。シンポジウムや講習会に参加している男性も一定数いるが、女性に連れられて来ている方も多く、**歩くまち事業に関しては女性の関心度の高さが伺える**。

Q

ウォーキングアプリの**ランニングコストの見直しやランニングコストを抑える方法**についてお伺いしたい。

参加団体

A

久御山町

システムのランニングコスト削減は大切だと考えているが、**現時点では削減に至っていない**。ランニングコストの内訳としてはサーバーの利用料やアプリの保守管理費が挙げられ、削減は難しい。
ランニングコストについては、**アプリ利用者を増やすことで1人当たりの負担額を減らしていきたい**と考えている。

KEY ANSWER

ニーズの収集方法や工夫している点は？



奈義町

▶ **地域住民の話を直接聞き、ニーズを収集することが大切だ**と考えている。また、自分が担当している仕事と関係ないニーズが上ってきたとしても、それを蓄積することで、将来の事業アイデアに繋がることもある。また、あらゆる属性の人に話を伺うことを重視している。**工夫点としては、まずは大雑把に地域住民のニーズを拾い上げ、そこから課題の共通点を見出した上で、再度詳細に話を伺うことを心掛けている。**



久御山町

▶ **歩くまち事業は、住民参加型の協議会を設置しており、様々な意見が出るように協議会の運営を工夫している。**

事業の計画段階では、ウォーキングコースを複数整備し、それぞれのコースをつなげることで町全体をウォーキングエリアとしたという想いを行政として協議会に提案したが、協議会から地域住民のウォーキングの機運醸成の方が必要だと指摘された。

行政の取り組みたいことと地域住民が求めていることがズレている場合もあるため、ニーズが合致しているか検証することは重要。また、庁内窓口に来られた地域住民に意見を伺うことも多い。**普段から意見が出やすい環境づくりを大切にしている。**

民間事業者との連携において工夫した点や意識している点は？



奈義町

▶ **できるだけ民間事業者に動いていただけるように事前に相談することも重要。**以前当町で推進したまるごとデジタル化事業では、大手通信キャリア3社を巻き込み、仕様等について、1つ1つ実現性を確認しながら事業を進めた。



久御山町

▶ **住民参加型の協議会に民間事業者も参加できる仕組みづくりをしたことが良かった**と感じている。これにより、民間事業者とともに協議会のあり方を本音で議論するとともに、協議会のネットワークを活用したイベントを立案できた。

また、ウォーキング環境の整備や、地域全体の健康をサポートするために「歩く拠点」認定制度を設けているが、その認定を電話1本でできるようにしたことも工夫点の1つである。

多くの負担を強いては民間事業者等がついてこないため、**住民、民間事業者、行政の3者が負担なく楽しくできるように工夫している。**

例えば、歩く拠点に認定された事業者等は、まずは取り組みやすい活動として、歩く拠点ののぼりを設置していただくことから依頼している。その甲斐あって、現在は当初の目標であった15団体を超える20団体が歩く拠点に認定されている。

事業を推進する中で得られている効果は？



奈義町

▶ **アウトカム指標として出生率を採用しており、しごとコンビニ事業以外の事業による効果も含まれるが、出生率は上昇している。**定性的な効果では、**奈義町へ引っ越してきた方がしごとコンビニを利用することで交友関係が広がった**という話も伺った。また、子育て世代の社会的な孤立を防ぐことにも寄与している。**社会的包括という観点の成果も現れている。**



久御山町

▶ 現在、詳細なデータ検証の段階には至っていないものの、**参加者の平均歩数が前年同月比300歩増加という結果が見えてきている。**また、アンケート調査からも、**ウォーキングを通じて体調が良くなった**という回答や、**歩くことによって新たな交流が生まれた**という回答も見られる。参加者も着実に増えてきている。

これから生涯活躍のまちに取り組む地方公共団体へ一言！



奈義町

▶ **地域住民の方も生涯を通して活躍しながら生きていきたいという思いがあるため、住民の気持ちを拾いながら、住民の取り組みたいことを行政が手助けしていくことが大切。**当町はエンパワーメントという言葉を重視しており、**計画ありきではなく、住民自ら行動できるように手助けしている。**



久御山町

▶ **全世代が活躍できるようになることを念頭に置きながら、前向きに事業に取り組むことが重要**である。ハード事業、ソフト事業の連携や予算的な都合もあると思われるが、国の交付金などを活用して事業に取り組んでいただきたい。

連絡先

「生涯活躍のまち」全般について

内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局

石川・中村・曾我

☎ 03-6257-1414

✉ nihonban-ccrc.n2c@cas.go.jp

本事業に関するお問い合わせについて

PwCコンサルティング合同会社（本事業委託先）

東海林・横山・尾崎

☎ 050-3196-9872

✉ jp_cons_multigenerational@pwc.com